

6月のてがたんにご参加いただきありがとうございました。てがたんの観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回7月のてがたんは7月8日(土)で、テーマは「歩道で生きるガッツな植物」です。

*市民スタッフの方へ 次回のてがたん下見は、7月1日(日)の9:30からです。

6月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→香取神社→藤棚→けやき広場
- 観察日時と天気：2017年6月10日(土) 10:00~12:00 晴れ
- 参加人数：30名(大人21名、小学生以下9名)
- 市民スタッフ：4人 (小泉伸夫、石原直子、伊東茂子、湯瀬一栄)
- 鳥博職員：2人 (岩本二郎・小田谷嘉弥)

観察した生き物の記録

【鳥類】

キジ科：キジ/カモ科：カルガモ/ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ/カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ/ツバメ科：ツバメ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/メジロ科：メジロ(声のみ)/ヨシキリ科：オオヨシキリ/ムクドリ科：ムクドリ/スズメ科：スズメ/アトリ科：カワラヒワ/ホオジロ科：ホオジロ
家禽や外来種：ドバト(ハト科)

【爬虫類・両生類・魚類】

ミナミシガメ、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ウシガエル(声のみ)、ミナミメダカ、フナ類

【昆虫】

チョウ目：コムラサキ、アカボシゴマダラ、サトキマダラヒカゲ、ヒカゲチョウ、ベニシジミ、ルリシジミ、ムラサキシジミ、モンシロチョウ、モンキチョウ、キタキチョウ、ナガサキアゲハ、アオスジアゲハ、ジャコウアゲハ(幼虫)、ナミアゲハ、ヒロオビトンボエダシャク、ビロードハマキ、ヤナギドクガ/トンボ目：シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、コシアキトンボ、アオヤンマ/コウチュウ目：ナミテントウ、ナナホシテントウ、アカボシテントウ、ヒメカメノコテントウ、クロウリハムシ、コフキゾウムシ、オジロアシナガゾウムシ、マダクロホシタマムシ、チビタマムシの仲間、オオヒラタシデムシ/カメムシ目：ナガメ、アカスジキンカメムシ、ヨコヅナサシガメ/ゴキブリ目：モリチャバネゴキブリ/カマキリ目：カマキリまたはオオカマキリ(幼虫)/バッタ目：ショウリョウバッタ、オンブバッタ、ヒシバッタ、ツチイナゴ、ヤブキリ、ヒメギス、エンマコオロギ、キンヒバリ/ハエ目：センチクバエ、マダラアシナガキンバエ、ガガンボの仲間、ヒラタアブの仲間

【クモ】

ゴミグモ、クサグモ、サツマノミダマシ、ササグモ、オニグモ(幼体)、ジョロウグモ(幼体)、ジグモ(巣)、アリグモ、シロカネイソウロウグモ、アシナガグモ、ハナグモ

【花】

キク科：ヒメジョオン、オニタビラコ、ブタナ、ウラジロチチコグサ、オオキンケイギク/カタバミ科：カタバミ、アカカタバミ、オッタチカタバミ/ナデシコ科：ノミノツツリ/アカバナ科：アカバナユウゲショウ/ケシ科：ナガミヒナゲシ/ツユクサ科：トキワツユクサ/バラ科：オヘビイチゴ、ナワシロイチゴ/マメ科：シロツメクサ、アカツメクサ/アヤメ科：ニワゼキショウ、オオニワゼキショウ/シソ科：ムラサキシキブ/ラン科：ネジバナ/キンポウゲ科：ケキツネノボタン/クマツヅラ科：ヤナギハナガサ/ヒユ科：イヌビユ/アジサイ科：アジサイ/ヒガンバナ科：ノビル

観察した生き物の記録



今回のがたんのテーマは「生きもののカタチとデザイン」でした。この時期ならではの昆虫や植物を観察しながら、生きもののカタチに隠されたデザインのわけを探りました。



今月の案内人 小泉伸夫さん



①ウマノスズクサにいたジャコウアゲハの幼虫



②たくさんの種の入ったナガミヒナゲシの子房



③クズの葉についていたコフキソウムシ



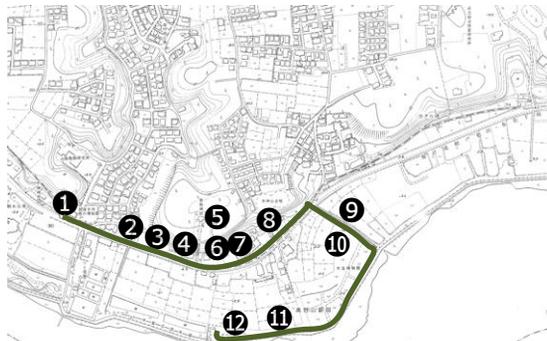
④草の上で止まっていたヒメカメノコデントウ



⑥交通事故に遭ってしまったカルガモのオス



⑤アリグモのメス。アリグモはアリにそっくりに擬態していますが、脚が8本であること、お尻から糸を出すことなどでアリと見分けられます。



歩いたルートと観察した生き物



⑪ネジバナは身近に見られるランの仲間です。蜜を吸いにきた昆虫にネバネバした花粉の塊をくっつけ、他の花に花粉を運んでもらっています。



⑦上陸したばかりのアズマヒキガエル



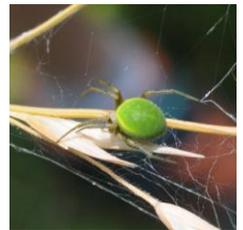
⑧マサキに止まっていたヤブキリの成虫



⑨休耕田で採食していたハシボソガラスの親子



⑩水田で採集したノシメトンボ?のヤゴ



⑫未熟なハゼの実に似たサツマノミダマシ

今月の鳥 オオヨシキリ スズメ目ヨシキリ科

オオヨシキリは、スズメより大きい褐色の小鳥です。初夏になると手賀沼周辺の水辺の草地に渡来し、オスは「ギョシ、ギョシ」と大きな声で囀ります。オオヨシキリの翼は同様な生活をするウグイスに比べて尖った形をしており、より長距離の渡りに適応していると考えられています。嘴の根元には長いひげが数本伸びていて、餌であるバッタやクモを取り逃がさないような形をしています。脚は頑丈で、長い爪でヨシの茎をしっかりとつかめるようになっています。生きものの形は、より適したものが生き残る自然の選択を受け、長い時間をかけて進化してきました。いろいろな生きものの形にどんな意味があるのか、観察して考えてみましょう。



オオヨシキリの尖った頭部はヨシ原の生活への適応